

実施学年	科目名 [略称]・(別名)	単位数	実施時期	授業方法	必修,選択 or修得必須	担当者
専攻科1年	プログラミング言語 [プロ言] (Programming Languages)	2	前期	講義	選択	藤尾三紀夫 Mikio Fujio

1. 目的：

プログラミング言語は、人間の思考をコンピュータが理解できる言語で表現するための言語であり、コンピュータ制御の基本となる。本講義では言語処理系の入力となるプログラム言語、プログラム翻訳の実行の意味を明らかにし、字句解析、構文解析、意味解析の概略について説明する。
なお、受講学生の希望により言語教育を行うこともある。

2. 内容：

- (a)プログラムの定義と種類
- (b)プログラム言語の文法
- (c)コンパイラ
- (d)プログラム言語の標準化
- (e)プログラム言語のトレンド

3. 専門教科の教授目標との関連：

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
		○		○						○		◎						○		

4. 教科書：

プログラム言語 君島浩著 ソフトバンク

5. 参考書：

特に指定しない

6. 関連科目・先修条件：

プログラミング経験があること（言語は問わない）。
基本的なプログラミングにおける制御構造を理解しておく事。

7. 評価方法：

定期試験の結果を基準に、受講態度、出席等を考慮して評価を行う。

8. 講義計画：

- 第 1 週 プログラムとは何か
- 第 2 週 プログラム言語の必要性
- 第 3 週 プログラム言語の種類と用途
- 第 4 週 プログラム言語の文法
- 第 5 週 プログラム言語の文法
- 第 6 週 プログラム言語の文法
- 第 7 週 コンパイラの翻訳技術
- 第 8 週 コンパイラの翻訳技術
- 第 9 週 コンパイラの翻訳技術
- 第 10 週 コンパイラの翻訳技術
- 第 11 週 プログラムの性能と品質
- 第 12 週 プログラム言語の標準化
- 第 13 週 プログラム言語の変遷
- 第 14 週 プログラムを作る人使う人
- 第 15 週 定期試験

9. 補足：

受講学生のプログラミングに関する知識レベル、あるいは希望により内容を一部変更する場合がある。